

# 追い詰められた橋下・維新

大阪維新の会の橋下徹代表は1日、新たな国政政党「おおさか維新の会」の結成を正式表明しました。同時に、ダブル選(11月22日投開票)で知事候補に現職の松井一郎氏、大阪市長候補に前衆院議員の吉村洋文氏を擁立すると発表。新党の綱領案(6面に全文)で「大阪を副首都とする」などどうしたい、ダブル選で「大阪都」構想に再挑戦するとしています。

## ■傲慢な正体が

「維新の党が偽物の維新の党になってしまったので、本物の維新の党に維新の党をつくる必要がある」と1日の記者会見で橋下氏はこうぶち上げました。「本物の証」として持ち出すのは「大阪都」構想。新党の綱領案でも「基本政策」の2番目に掲げています。

ところが「大阪都」構想は、5月の住民投票で明白に「ノー」の審判が突き付けられたもの。「大阪を変えるラストチャンス」と叫んでいた橋下氏が、「政界引退」表明に追い込まれました。それから5カ月足らず。橋下氏は「区割りを変えてバージョンアップ

する」と語り、松井氏も1日の会見で「ひざ詰め

い打ちを掛けてきました。府財政も借金残高が6兆円を超えるなど、深刻さは増すばかりです。維新政治は地下鉄など「何でも民営化」や、府立・大阪市立の施設の統廃合を狙い、議会で否決されても再提案。橋下氏肝煎りの「公募区長」公



さらには「選挙で勝てば

# 新党結成打ち出すも ボロボロの「都」構想

談判をスタートする」と

区別の区割りや町名などの

こと、大阪市を廃止・

ありませぬ。

橋下氏は繰り返し「住民投票は究極の民主主義」と言い募ってきましたが、「民意より自分たちが上だ」「民意を聞く必要がない」という傲慢

新党結成で「大阪を再生する」と橋下氏。しかし維新の府市政になって4年、橋下氏が知事になって以後の8年で、「大阪は豊かになる」とどこるか、雇い主報酬や家計消費で全国以上に落ち込み、維新政治による福祉・暮らしの切り捨てが追

## ■害悪は隠せず

物語っています。募校長」はスキャンダルや不祥事が繰り返されて

2日開かれた大阪市議会民生保健委員会、過去2回否決されたにもかかわらず橋下徹市長が提出した市立環境科学研究所を廃止・独法化し、府立公衆衛生研究所と統合する議案が、維新以外の会の反対で3度否決された。同日の都市経済委員会でも、橋下市長が三たび提出した案も維新以外の会派の反対で否決しました。

新党結成、ダブル選候補を正式発表した維新の会見。「主役」を演じる橋下氏ですが…1日、大阪市北区内

ち込み、職員基本条例や憲法違反の「思想調査」などで職員を締め付け、維新政治の奉仕者として使ってきました。ダブル選を前に「維新政治ノ」の共同がさらに広がっているのは、これまでの維新政治の害悪が隠しようがなくなっているからです。

## ■思惑は崩れて

8月末、松井氏とともに維新の党を離党した橋下氏は、「いま党を割るようなことはしない」などと言っておきながら、

産業技術総合研究所との統合議案を、維新以外の会派が反対し否決。再提出の大阪港と堺・泉北港との統合議案も維新以外の会派の反対で否決しました。

## 統合議案三たび否決 大阪市議会

1カ月後には新党結成を表明。「9月は日本にとって重要な安保法案審議があるので、国会中は党を割ることはしない」などと言いつきました。安倍政権の補完勢力として戦争法案推進で維新の党をまとめるという思惑が、空前の規模で広がった国民の反対世論の前に崩れ去ったのが実際。「原点回帰」と言うものの、「党を割るしかない」ところに追い込まれているのです。大阪での「反維新」の共同は2013年の堺市長選で始まり、同市や岸和田市など計250万人が暮らす8市で、「反維新」の立場に立つ市長が生まれています。日本共産党大阪府委員会は5日発表したアピールで、「追われる『維新』に文字通りの決定的痛打をあげようではありませんか。大阪から逆流を打ち破り、地方自治と民主主義の流れを広げる大きな一翼を担おうではありませんか」と、ダブル選を「オール大阪」の力で勝利しようと呼び掛けました。その「大阪秋の陣」が目の前です。